

## くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.35

開催地：人吉市西瀬校区

平成19年10月4日（木）、人吉市西瀬校区（会場：西瀬校区公民館）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約30名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

市内	23名
市外	2名

※参加者数は記名者数

### 住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

#### 【河川整備基本方針の説明について】

- ・市房ダムや鶴田ダムなど、ダムの放水による洪水の事実に触れられていない。
- ・森林の保水力の評価が低い。間伐をしっかり行い、人工林と広葉樹の混交林となれば、保水効果は非常に高くなる。基本高水流量の（人吉地点）7,000m<sup>3</sup>/sは過大。
- ・川内川の洪水の例があったが、宮崎の森林は健全な状態でなく、保水力が無い状態だった。そうした森林の状況も考慮して欲しい。
- ・この報告会は、川辺川ダムをつくるための前提という話を聞いたが、そうではないのか。
- ・なるほどと思うところもあるが、説明に腑に落ちないところもある。現実的ではないと思う。将来に球磨川にダムはいらない。
- ・基本高水と計画高水の差について、森林もダメ、あれもこれもダメと、洪水から守るためにはダムしか無いと誘導されているような感じがする。あくまで基本方針の説明であり、ダム等については白紙ということではどうか。

#### 【球磨川の治水対策について】

- ・（市房）ダムができる以前の球磨川はきれいであり、人命を奪うような洪水は無かった。ダムによる治水効果には大きな疑問がある。
- ・（市房）ダムが出来てから、あつという間に増水して、あつという間に減るようになった。それまでは、5～6年おきに洪水があり、低い土地で堤防も低かったが、避難ができており、被害は無かった。
- ・（S40年水害後）川幅が倍になり、堤防も1.5m高くなっており、もうダムはいらない。
- ・市房ダムができて被害を軽減したという話もあるが、市房ダムが原因で被害が増大したと確信している。
- ・現在堆積している土砂をとれば、堤防の嵩上げは必要無いと思う。
- ・S40年の洪水時には、田んぼのところでは背がたたず、家に登った。当時80ぐらいの祖母が、今までで初めてと言っていた。
- ・S40年の洪水時には、朝起こされたら、足元まで水が来ていて、10分後には量が浮いてきた。こうした急激に出る水はダムが原因だろうと思う。
- ・薩摩瀬には立派な堤防が造られたから、洪水は来ないと思う。後はダムを崩してもらえば川はよくなる。ダムがあるから堤防をつくらなければいけなくなり、余計な投資である。
- ・S40年の洪水時には、私の集落で、14世帯、67名が流出等で被害をうけた。あつという間に水が出て、朝の6時頃がピークであった。6時に急速に水が引き、脱出したが、家も何もなくなっていて、呆然とした。農業用のサイロだけが残っていた。
- ・S40年の水害での唯一の犠牲者は、私の目の前で亡くなった。国土交通大臣が、S40年の水害で何十人も亡くなったと言ったが、実際亡くなったのはたった1人。もう一人の方は下水道でなくなった。

#### 【球磨川の環境について】

- ・深田で人吉層が露出したのは市房ダムができたからである。瀬が消滅したのも上流にダムが2つあるからである。

・ダムは造らないで、昔の球磨川に戻して欲しい。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

